

社外の方からの評価

信頼され選ばれ続けるエネルギー会社であるために

電気・ガスの小売り全面自由化が始まり、消費者がエネルギー会社を選ぶ時代を迎えました。消費者から信頼され選ばれ続けるためには、安定したエネルギーの供給や価格はもちろんのこと、社会からの要請に配慮し、期待に応えていくCSRの取組みも重要となります。今回の報告書では、昨年度からの取組みの進化をみることができました。今後への期待も含め、コメントします。

<評価すること>

お客さまサービスの充実

CSRの新たな重点項目に「お客さま満足の創造」を掲げ、お客さまサービスのラインナップが更に充実しました(P27)。新サービス「九電あんしんサポート」も加わり、消費者が抱える暮らしの中のさまざまな課題やニーズに向き合い、寄り添う姿勢が感じられます。このことは人々の生活を支えるインフラ企業としてまさに求められていることであり、選ばれ続ける要素になるはずです。

安全の取組み推進の徹底

安全面では、九州電力グループ全体の取組みを推進する「全社安全推進委員会」が新たに設置されました(P36)。地域における徹底した安全対策はもちろんのこと、さまざまな作業現場における作業者の安全最優先という意識の醸成が求められます。全ての社員方々の安全意識の向上にも期待しています。

地域・社会共生活動の充実

昨年設立された「九電みらい財団」は、地域における環境活動や次世代育成支援活動への意気込みが感じられます(P90)。地域が抱えるさまざまな環境課題に向き合い、共に活発な活動が繰り広げられています。また、次世代育成活動団体への助成は子どもたちの未来の夢や希望に繋がるものです。

CSR目標の提示

CSRの取組み目標がわかりやすく提示されました(P21)。CSRは企業に関わる方々を始め社会全体への強いメッセージ

となるものです。7つの重点項目における目標はそれぞれ具体的に、CSR経営の徹底についての覚悟さえ感じられるものです。

<今後への期待>

コミュニケーション活動の面では、東日本大震災以降の原子力への不安に対して丁寧な活動が続けられていることがわかります(P87)。しかし、多くの人が抱える不安の解消に向けて、安全性確保への具体的取組みの徹底、あらゆる機会での情報公開を続けることが大切です。

そして、ダイバーシティ推進への動きに期待しています。特に女性活躍推進においては、女性管理職の新規登用数を2倍にするという目標などの行動計画を掲げ、研修の充実や意識改革・企業風土の醸成への取組みが積極的に進められていることがわかります(P105)。女性活躍推進法にもとづく「えるぼし」の認定を九州で2番目に受けた企業として、ダイバーシティの取組みのモデルを示して頂きたいものです。

また、CSRの新たな潮流として、事業を通じて社会課題の解決に貢献する企業が増えている中、九州電力らしい展開がさらに繰り広げられることに期待しています。グループの総力を挙げて、これまで培った経営資源を活かした新たな事業展開とともに、地域・社会をよりよいものにしてください。

信頼され選ばれ続けるエネルギー会社としての飛躍に期待しています。

公益財団法人
大野城まどかびあ館長

はやしだ
林田 スマ氏



評価を受けて

昨年に続き、大野城まどかびあ館長の林田さまからご意見をいただきました。

当社グループは、九州電力の思い「ずっと先まで、明るくしたい。」を実現し、社会の持続的な発展に貢献していくため、CSR基本方針(「九州電力グループCSR憲章」)のもと、CSR経営を推進しています。2016年度は、「九電あんしんサポート」によるサービスの展開や、「九電みらい財団」による活動など、CSRの取組みを充実させました。

今後の期待としてご意見をいただいた原子力発電の不安への対応につきましては、安全対策の徹底はもとより、地域の皆さまの不安や疑問の声を丁寧にお聴きするコミュニケーション活動を引き続き積極的に行ってまいります。また、ダイバーシティ推進では、多様な人材を活かす意識の一層の

浸透やキャリア形成支援などに積極的に取り組んでいきます。そして、事業を通じた社会課題解決への貢献につきましては、グループの経営資源の活用や他企業等と協働し、新たな事業・サービスを創出することにも力を入れていきます。

当社グループは、今後とも、皆さまから信頼される企業を目指し、CSR経営を推進していきます。

九州電力株式会社
代表取締役副社長 CSR担当

さとう なおふみ
佐藤 尚文

